

## やっぱり、「ナンバー・ワン」を目指したい

校長 細江 幸次

もうずいぶん前になってしまいますが、学校では「ナンバー・ワン」よりも「オンリー・ワン」という言葉がもてはやされていた時代があります。当時、この言葉は多くの人たちに安心感を与え、それに加えて人気アイドルグループがその言葉が歌詞に登場してくる曲を歌っていたこともあり、多くの人たちが様々な場において、話や文章の中に入れて込んでいた記憶があります。これは古くからの全体主義・集団主義から抜け出し、「個の尊重」に重きがおかれ始め、「自分は自分らしく」ということが公に大切にされ始めたからだだと思います。そのことは当然今でも大切にされていますし、これから先もそうでなければいけないと思います。

しかし、この頃になって、「それでもやっぱり、ナンバー・ワン」という言葉も聞かれるようになってきました。そして、それは以前まで使われていた「ナンバー・ワン」とは少し様相を変えているように感じています。その違いは周りにいる人たちと競い合う中で、他人と比較したナンバー・ワンではなく、自分の中でのナンバー・ワンではないかととらえています。例えば、私自身で気が付いたことをあげると、この何年かの中で、特にプロ・スポーツ選手が自己の成績について目標を語ったり、振り返りをしたりするときに「キャリア・ハイ」という言葉をよく使うようになってきました。また、メディアもこの言葉を使って選手の活躍を報じるようになってきています。これは「自己ベスト」という言葉で置き換えてもいいでしょう。まわりの競争相手は飽くまで自分自身を少しでも高めていくための指標であって、最終的には過去の自分より少しでもよい結果を出すことが目標となっています。そして、競技の中でも「自分との戦い」という表現を使って振り返りをしている選手が実に多くなっていると感じています。

他人と比較しての一番はどのいかなる場においても、たった一人しかいませんが、「自分の中で一番」は全員が一番になることができる一番です。何か回りくどい言い方になっていますが、要は「今までの中で一番うれしかった。」「今までの中で一番がんばった。」「今までの中で一番良かった。」と言えるように頑張ることです。このように考えると、毎日のチャレンジが楽しみになってくると思いますし、プレッシャーもいづらか軽減できるような気がしてきます。そして、この「自分の中で一番」を積み重ねていくことで、もしかしたら「学級の中で一番」や「日本の中で一番」になっていくこともあるのかもしれません。誰にでも達成することができそうな「自分の中の一番」は、毎日の「ほんの少しの背伸び」と、「ほんの少しのジャンプ」で届きそうなめあて・目標を設定し、努力を積み重ねることで生まれてきます。

間もなく2月に入ります。最後の振り返りで、上矢作っ子全員が「自分の中で一番」を感じて締めくくれることを願っています。

もうすぐ今日が終わる やり残したことはないかい  
親友と語り合ったかい 燃えるような恋をしたかい  
一生忘れないような出来事に会えたかい  
かけがえのない時間を胸に刻み込んだかい

(「オワリはじまり」 かりゆし58 より)



1月12日  
書き初め会